

# 現場の教育向上のために

橋 田 義 雄

幼稚園というのだから、緑りなす芝生に遊び、そよ風にゆれる緑樹の陰に、いこう幼児の姿を想像するのだが、現場にのぞんで見ると決してそうではない。一人の教師に三十有余の幼児、狭いすし詰めの教室、芝生もなければ植木もないコンクリートの運動場、このような姿の幼稚園をしばしば見うけるのである。

現場教育向上のための論文であれば、先ず何よりも先に、このような貧弱極まりない施設や内容について検討を加え、改善をはからねばならぬと痛感するのだが、さてこのような施設内容の改善は一朝一夕に実現するものではない。福岡県のある会場で放送教育の研究会有り、私は幼児の部に出席した。テレビの番組についての検討が行なわれたが参集する先生方の幼稚園にはせいぜい一台のテレビがあるだけで、各教室別に所有している園はなかったし、一台もな

いという園すらあるのであるから、内容の貧弱さはおして知るべきである。

ところで、このような施設内容の改善をまっぴら現場教育の向上がある、というので施設不備の条件の上にあぐらをかいているのでは、いつの事やら気の長い話である。しかも施設内容の如何にかかわらず、毎年毎年、園児は入園しまた卒園してゆくのである。そこで近い将来に改善せられるであろう施設内容の方策に關しては、これを他者に譲って、いま、ある園の現場に立って、教師はいったい何をなすべきであろうか、という視点において考察してみよう。

## (一) 愛 情

現場教育の向上は、つきつめてゆけば結局教師その人の人格によるということになる。整備された庭園も校舎も教室も、これを利用

し活用するその人を得なければその効力を發揮するものではない。

師の聖者と仰がれるベスタロッターの教育は、その施設内容がすぐれていたからあの輝かしい成果をおさめたわけではない。ノイホーフからスタンツへ、スタンツからブルグルフ、イフェルデンへと転じたベスタロッターの教育を通じて流れる源泉は吸めどもつきぬ教育愛の熱情であった。七十二名の孤児を戦禍の中から收容したスタンツの孤児院は彼とただ一人の下婢によって、教授並びに生活指導のいっさいが寸暇なき労苦の中に行なわれている。

…私一人が朝から夜まで子どもらと一しょにいた、心身両面の子どもらすべての必要を満してやったのは私の手であった。子どもらにはあらゆる必要な援助、慰藉、教授を直接に私からうけた。彼らの手は私の手に握られ、私の目は彼らの目に注がれた。

私共は共に泣き共に笑った。子どもらには世界を忘れスタンツをも忘れて、ただ彼らは私と共にあるを知り、私は彼らと共にあるを知るのみであった。私共は飲み物、食い物を分ちあった。私には家族も友人も雇人もいなくて、ただ彼らあるのみであった。私は彼らの病めるときも健かなるときも眠れるときも彼らと共にいた。…」

とスタンツ便りにヘスタロッターは述懐している。

私はここで何も幼稚園の先生方にお説教をしようと思っているわけではない。ただ現場の教育の向上と問われるから、何はともあれ、このベスタロッター程にはいかなくても、幼児がすきだとい

う、子どもへの愛情を自らに問うてみて、はいと答え得る人を教師に迎えることがまず何よりの先決条件だといいたいのである。

あの子この子へと愛情にもいろいろ異なる差別がある。母親の愛であれば本能愛であって、その子の優劣、美醜にかかわらず、愛は奔流する。だが教師は母親ではない。母親ならざる者の愛はエロスである。園児における美なるものに愛を感じ、園児における優秀なるものにひかれて愛を感じ、園児における才能豊かなるものにひかれての愛なのである。その美を育てその才を伸ばしその秀でたるを成就せしむるところに教育の楽しみを感じる、これがエロスの愛である。だが、美なるものを愛するの愛は醜なるものを憎しみ嫌悪するの情に通ずる。才能なき子、愚鈍なる子への愛情は湧出してこない。三十余の幼児のある者は教師の愛の腕に抱かれ、ある者はその外に投げ出されるとするならば、教育の向上など絶対にあり得ない。ベスタロッターの愛はアガペーである。美醜優劣の如何にかかわらず、その子を愛せずにはおられないのである。おろかなるが故に愛し愛するが故に育てざるを得ない熱情が湧出するのである。醜きが故に憐愍の情を燃やし救いの手をさしのべざるを得ないのである。

あの子を愛しあの子をすてる教師、永年勤続して愛の行為が事務化する教師、自己感情の奔流に流されて抑制することのできない愛憎好意にむらのある教師、このような教師が出勤簿に印をつらねている園ではどのように施設の改善を行なっても教育の向上はない。

## (二) 識見

幼児を愛する情熱もそれだけでは教育愛にならない。醜く愚かなる者に向かって人間への途に前進を促し、促すと同時に手をさし、べて引きあげる助力を借しまぬ愛でなくてはならぬ。前進を促し、引きあげる助力を発揮するには、情熱だけではどうにもならないのである。

「先生うちの子は、無口で進んで発表しようとしませんがどうしたらいいでしょう」と母親は尋ねる。教師はどう答えたらよいのだろうか。「先生、うちの子は、とてもはしゃぎで落ちつきが足りないのですが」と他の母は尋ねる。教師はこれに対しても答えねばならぬ。口数の少ない者にはより多くしゃべるようにし、口数の多い者には寡言の徳を説く、とすればこの教師はいつたい如何なる人間像を抱きながらあの子この子に前進を促しているのだろうかと疑問を抱かざるを得なくなる。そこに描かれている人間像は平均化された均一的人間像ではあるまいか。二十年後のあの子この子は、社会生活の第一線に躍り出て、或る者は教壇に或る者は技術家に、或る者は商店に或る者は農業に、それぞれ異なった人生を辿るのである。個性伸長の基礎に培う幼児教育の重要性を想う時、幼児担当教師の責任は重大である。

さて少し話が理屈っぽくなったが、要するに幼児教育は人生のスタートにおける教育であり個性の基礎に培う教育だから、園児担当

の教師には、しっかりした教育的識見がいるということである。

民主教育における基本的人間としての基礎条件は第一に主体性の確立であり、第二に協同性の育成ということである。あの子この子がどのような人生を辿るにしても、しっかりした足どりで自らの行く道を前進するということができれば、教育は成功である。どのような紆余曲節があっても、自ら志向して警察官を選び自らの能力の限界において巡査部長で終ったとすれば、教育は成功である。自ら思考し判断し実践する人間、これが主体性の確立した人間である。園児の教育においても、しっかりした子どもとしからざる子どもとその子の年齢と発達段階にてらして観察評価し、前進への基準を見出すことが肝要である。口数は少なくても、しっかりした考えと実践力があれば、そうそうおしゃべりになる必要はあるまい。一学期が終り二学期が始まって、あの子は依然としておかあさんにつれられてくるのであれば、五歳児の発達にてらして、主体性の育成にかけている。そうだとすれば何故ほかの子のように一本立ができないであろうかと、教師は考察しなければならぬ。考察の手がかりは何か、ということになれば、その子の成育史を辿り、その子の家庭環境近隣環境を分析しては正しい評定はできないのである。

教育理念を教師が抱き、その理念の追求にあたっての教育方法を身につける、かくて教師が教師として道を歩きうる識見ある教師に

なり得るのである。

協同性の育成ということは、園児教育の重要使命である。主体性の確立は利己的個人主義にも通ずる道であって、これのみでは決して有為の社会人ではない。家族を思い近隣を思い、国家を思う愛情の人こそ真に価値ある人間の人間である。ヘンザムやミルのような功利主義的倫理を説く学者は、人間は利己的である、という出発点から人の道を説いている。利己が利己に留まる時、社会は弱肉強食の修羅の巷と化する、したがって利己から利他への道か人倫の道であるという、カントであれヘンザムであれ、あの子この子に、親を思い兄弟を思い、隣人を思う人間の情操を培うことこそ、園児教育の重大任務であらう。

### (三) 教育技術

愛情に燃え、信念を抱く教師に対して、最後に切望する要素は、教育技術を身につけてほしいということである。

教室の片隅に孤立している物言わざる子の教師が愛情に燃え信念を抱いているからといって、物言う子になり、手をつなく子にはなかなかならないのである。物言わざる子には物言わざる理由があり根拠がある。先ずこの教師はそうした根源をさぐりあてる心理学的技術をもって調査する必要があるであらう。原因が判明したからといってすぐ物言うようになるものではない。次いで施すべき処置は、物の言える環境構成である。物言わぬ子に物言えと要求するこ

とは残酷物語である。ノンティレクティブ即ち非指示法とカウンセリングで呼ばれている臨床法的措置がここに必要となる。くり返しくり返しこの子に対面しながら、子どもの自己閉鎖の壁がきり開かれることを待つのである。

描画能力の発達を研究してみれば、なかりがきのあの子とバハを入念に微細にかいてこの子の発達過程がわかってくる。発達過程がわかれば指導のことも会得できる。教師はさほど絵が上手である必要はない。描いている子どもの姿がわかることである。これは曲の大家といえども会得していない園児教育の専門家が有する専門技術なのである。

幼児教育には幼児教育独得の専門技術が必要である。幼児の集団指導、幼児の学習指導、幼児の生活指導など、まことにむつかしい領分である。たか教師はこれらの技術獲得に精進しその技術が信念をかため、かくてこそ幼児愛の愛の教育が成立するものである。

愛情の教師

信念の教師

技術の教師

現場の教育を向上させる現下の重要問題として私はこれを提示する。

(福岡学芸大学)

\* \* \*